

Soames の出来事タイプとしての命題

菊池翔士 (Shoji Kikuchi)

東京大学

本発表では、Soames (2010) によって提案された命題の分析を紹介し、それに寄せられた批判に対してどのように応答することが可能であるのかを検討する。

Soames にとって命題とは、基本的には、述定と呼ばれる行為がされている出来事のタイプである。たとえば、東京タワーは赤いという命題は、行為者が東京タワーに赤さを述定する出来事のタイプであり、そのトークンとしては、東京タワーは赤いと主張する出来事や、東京タワーを赤いものとして見ることなどが挙げられる。この議論は、命題概念が言語に依存しない・存在論的儉約などの多くのメリットをもっている。

一方で、この議論に対しては、問題点も指摘されている。それらの指摘の多くは、以下の二つの点にまとめることができる。ひとつは、述定という行為の概念が明確なものではないという点である。そしてもうひとつは、東京タワーは赤いという命題のような Soames の議論にとって最も典型的なもの以外の命題を、どのように取り扱うのかという点である。たとえば、誰もそれを述定したことがないようなトークンの存在しない命題や、東京タワーは赤くかつスカイツリーは白いような複合的な命題が、これにあたる。Soames は、これらの命題についても説明を与えているが、それは満足のいくものであるとは言い難く、その説明に対してもいくつかの批判が寄せられている。

本発表では、この二つのポイントに注目し、Soames の議論を批判から救う余地について検討することにする。

参考文献

Soames, S. (2010). *What Is Meaning?* Princeton, NJ: Princeton University Press